

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成を目標とした授業実践を行う。</p> <p>②生徒の国際的視野を一層広げ、グローバル人材を育成するため体験活動を活用した実践的な国際教育を充実させる。</p> <p>③生徒主体の学校行事や生徒会活動を通して、豊かで幅広い人間力を養う。</p>	<p>①学習の基盤となる資質・能力の育成に資するためICT機器を活用した授業実践とする。学習支援アプリ等を有効活用しわかる授業を実践する。</p> <p>②外国語教育の充実や姉妹校交流等、積極的に国際社会へ参画する力を育成する。</p> <p>③-1 生徒主体の学校行事となるよう支援する。</p> <p>③-2 活動の成果をホームページ等で広報し、保護者・地域の理解につなげ、生徒の自己肯定感を涵養する。</p>	<p>①-1 学習支援アプリ「ロイロノートスクール」の活用を一層推進し、授業での活用実践、実績をつくる。職員対象の研修を実施しスキルアップに資する。</p> <p>①-2 成績処理支援システムによる生徒の出欠席管理等を軌道に乗せる。授業出席管理での事故防止を図る。</p> <p>②-1 インターネット会議システムを利用したオンライン交流を行うと共に、多くの生徒が国際交流にかかわる機会を作る</p> <p>②-2 2年生のスピーチコンテストにプレゼンテーションの要素を取り入れる。</p> <p>③-1 行事の実施において、生徒が主体的に運営に携わり計画・実施・振り返りまでのサイクルを回すことができるよう、委員会生徒を指導する。</p> <p>③-2 学校行事の様子等をホームページ等を利用して紹介する。</p>	<p>①-1 「ロイロノートスクール」のメリットを活かしたよりインタラクティブな授業実践が行われたか。</p> <p>①-2 集約された出欠席データで生徒状況をリアルタイムに把握し、生徒の改善指導に反映させることができたか。</p> <p>①-2 成績処理等での生徒の出欠管理でのミスを経減することができたか。</p> <p>②-1 オンライン交流が令和2年度より充実したものになったか。</p> <p>②-1 新たな国際交流の機会を作ったか。</p> <p>②-2 スピーチコンテストの内容に満足した生徒が多かったか。</p> <p>③-1 生徒が主体的に行事運営を行うことができるよう指導を行うことができたか。</p> <p>③-2 本校の行事に関心を持つ中学生を増やすことができたか。生徒の活動の様子を適宜保護者・地域に発信し理解を得ることができたか。</p>	<p>①-1 オンライン授業においてロイロノートを活用したインタラクティブな授業を実施した。</p> <p>①-2 生徒の出欠状況の把握で即時的なデータ確認ができた。点検作業でも活用し、集計ミスの減少となった。</p> <p>②-1 オーストラリアの高校との交流は昨年数よりも増え内容も充実した。韓国の姉妹校交流は昨年度と同程度の回数、内容であった。</p> <p>②-1 文部科学省が行う「#せかい部」の活動に参加した。</p> <p>②-2 スピーチコンテストは12月に開催予定</p> <p>③-1 生徒が主体的に行事運営に関わるよう指導した。</p> <p>③-2 ホームページ等の媒体を活用して、行事等の様子を広報し、本校理解につなげた。</p>	<p>①-1 インターネットの環境改善を引き続き進める。</p> <p>②-1 より充実したオンライン交流となるよう内容等の工夫を進めていく。</p> <p>②-1 交流活動が生徒主体で展開できるよう工夫と改善を加える。</p> <p>③-2 より臨場感をもって伝わるよう工夫や改善について引き続き検討する。</p>	<p>①-1 オンライン授業やICTを活用した授業の取り組みは、授業スタイルとして十分根付いている。学習に対する生徒の意識を高めることに有用である。</p> <p>①-1 学校教育の成果が「研究報告書」によくまとめられている。</p> <p>②-1 姉妹校交流をオンライン交流となったが、一定の成果がうかがえる。現地交流の難しさがあるが、引き続いて一層の工夫を進めてもらいたい。</p> <p>③-1 コロナ禍での体育祭での育祭、文化祭、球技大会、合唱祭と大きな行事を実施できたことは、生徒の主体性や創意工夫の力を育む成果が見られる。</p>	<p>①-1 電子黒板、学習支援アプリ「ロイロノート」を活用した授業を進めることができた。</p> <p>①-1 「研究報告書」は内容の充実を図ることができた。</p> <p>②-1 オーストラリア、韓国とのオンラインでの交流は、生徒同士のライブの交流が実現できた。</p> <p>③-1 体育祭、文化祭、合唱祭、球技大会とほぼ大きな学校行事は実施できた。コロナ禍で感染対策が徹底できた。</p> <p>③-2 ホームジに加え公式twitterを引き続き広報媒体として活用した。</p>	<p>①-1 電子黒板等、ICT機器の活用をさらに深め、生徒の協働学習や主体的に学習に臨む姿の育成に活かしていく。</p> <p>①-1 「グローバル教育研究推進校」の取組とICT機器の活用をいかに結び付けるか検討する。</p> <p>②-1 姉妹校交流等を引き続きオンラインで実施する。交流がより深まるようなテーマ設定や内容の工夫を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解にたった支援、相談体制を充実させる。</p> <p>②部活動の活性化を通して連帯感や責任感の涵養を図る。</p>	<p>①生徒理解に基づく生徒指導、生徒支援により、生徒の自律心や人権意識の向上につなげる。</p> <p>②活動の成果をホームページ等で広報し、保護者・地域の理解につなげ、生徒の自己肯定感を涵養する。</p>	<p>①-1 教育相談に関する研修を実施し、職員の総合的な支援スキルを高める。</p> <p>①-2 生徒の個別の課題の正確な把握、職員間の情報共有を踏まえた、支援策をたてる。</p> <p>②部活動の活動の様子等を随時ホームページで紹介する。</p>	<p>①-1 本校生徒の課題に対応した効果的な研修が実施できたか。</p> <p>①-2 適切な支援策の検討と実施がなされたか。</p> <p>②本校の部活動に関心を持つ中学生を増やすことができたか。生徒の部活動の様子を適宜保護者・地域に発信し、理解を得ることができたか。</p>	<p>①-1 スクールカウンセラーによる生徒の自殺予防のための教育相談研修会を実施した。また、特別支援学校の地域センター機能を活用し、生徒の個別課題のアセスメントによる支援策の検討をはかった。</p> <p>②感染防止を徹底し部活動を実施した。生徒に行動に対する自己決定と自己責任の認識を深めさせた。</p> <p>②見学する機会が難しい状況で、ホームページの更新等により、活動の様子を外部に発信できた。</p>	<p>①-1 引き続き、生徒の個別の課題に対応できるように、教職員の支援スキルを高めていく。</p> <p>②部活動の意義や目的を生徒に理解させるよう指導を心がけ、生徒の責任感の醸成につなげる。</p> <p>②部活動の状況について随時ホームページ更新を行う。</p>	<p>① -1 アンケートの結果から生徒の学校生活への満足度が高いことがわかる。</p> <p>②部活動の様、取組の成果等を外部に発信し、横浜氷取沢高校の魅力を知ってもらいたい。</p> <p>②-1 ホームページ等の更新頻度を上げるための工夫が求められる。</p> <p>②-2 生徒にとって魅力ある部活動の在り方を考えていく。</p>	<p>①-1 生徒支援会議等、校内の支援体制の整理ができた。SC等の専門機関と連携した組織的な対応に努めたい。</p> <p>②-1 ホームページ等の更新頻度を上げるための工夫が求められる。</p> <p>②-2 生徒にとって魅力ある部活動の在り方を考えていく。</p>	

3	進路指導・支援	<p>①社会との関わりや自己の在り方について、主体的に考える態度の涵養を図り、自己実現につながる進路選択となるような手立てを講ずる。</p>	<p>①-1 明確な進路意識をもてるよう3年間の計画的・体系的なガイダンス体制を充実させる。 ①-2 生徒の適性や希望に沿った進路実現となるよう進路選択を考える機会を充実させる。</p>	<p>①-1 成績動向票や外部模試等の結果分析から、生徒の希望や実態を把握し、適切にアドバイスを行う。 ①-2 進路室・自習室の整備をさらに進め、生徒の自学学習と進路選択に資する環境を整える。 ①-2 進路選択に有効な各種説明会を開催する。 ①-2 ICTを活用した進路情報提供を行う。</p>	<p>①-1 学年ごとの成績動向や外部模試の結果が、生徒の進路実現につながったか。上位校への挑戦する生徒が前年度より増加したか。 ①-2 生徒の利用率が上がったか。 ①-2 説明会は生徒・保護者に参考となったか。 ①-2 適切な時期と有効な情報を提供できたか。</p>	<p>①-1 各学年とも模試の振り返りを活用することで学年に応じた進路意識づけになった。 ①-1 共通テストの受験希望者数190名を超えた。 ①-1 複数大学と連携し、大学の教育機能を有効活用できた。</p>	<p>①-1 卒業生や他校のデータ比較を通じて、コロナ禍による各領域の進捗度合いを教員や生徒に還元する。 ①-1 共通テストの受験意義の理解を踏まえ今後の生徒へのアドバイスが重要となる。 ①-1 生徒のニーズにあった大学等の特別講義を実施していく。</p>	<p>①-1 学校推薦での進学者が増えている。大学の学習内容を十分に理解した上で受験先を決定するよう事前の指導を慎重にお願いする。 ①-2 奨学金申請者数が増加している。生徒へは、様々な支援策について情報提供をお願いする。</p>	<p>①-1 外部模試を実施し、生徒の実力を測ることができた。コロナ禍の影響で大学入試体制に多くの変更があったが混乱なく進路実現につながった。 ①-2 進路室の生徒利用数が前年度より増加した。 ①-2 生徒、保護者向けオンライン進路説明会に多くの保護者の参加があった。大きな混乱なく実施できた。</p>	<p>①-1 3年間を見通した進路指導となるよう各学年での取組を見直していく。外部模試等の機会やデータをもとに、生徒の進路実現をめざす。 ①-2 進路指導室や自習室の機能をさらに充実させ、情報発信の場としていく。</p>
4	地域等との協働	<p>①家庭、地域の教育力を活用し地域との交流活動を通し、生徒、保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざす。</p>	<p>①-1 学校運営協議会の機能を活用した地域連携活動を行う。 ①-2 ホームページ等の広報媒体を充実させる。</p>	<p>①-1 対面での会議を開催し、交流事業等の具体的実現を図る。 ①-2 ホームページの更新を行う。twitterによる広報活動を行う。</p>	<p>①-1 対面での会議を開催できたか。交流事業を実現できたか。 ①-2 ホームページの更新回数が、令和2年度に比べて増加したか。 ①-2 Twitterによる情報発信が安定的に実施されているか。</p>	<p>①-1 年間3回の学校運営協議会(学校評価部会、地域連携部会)を開催した。地域につながる事業について意見交換ができた。 ①-2 ホームページ更新回数は昨年度並みである。 ①-2 twitterによる情報発信は定期的に実施した。</p>	<p>①-1 コロナ禍の中で可能な交流活動を考える。 ①-2 ホームページ、公式twitterの更新頻度をあげ、あわせて地域、中学生等に本校の魅力が伝わるよう内容面の工夫を進める。</p>	<p>①-1 例年通りの地域交流は難しかったが、実施可能な形態を模索しながら次年度は対面での交流の機会を持ちたい。 ①-2 ホームページ、twitter等、情報発信媒体を積極的に活用し、広報に努めている。</p>	<p>①-1 学校運営協議会をすべて対面で開催した。授業参観を実施し、生徒の普段の様子を知る機会とした。 ①-1 地域交流の機会は一部の部活動にとどまった。 ①-2 公式twitterを広報媒体として本校の教育活動を速報的に発信することができた。</p>	<p>①-1 学校運営協議会の機能を活かし生徒と地域との交流活動の実現をめざす。 ①-2 ホームページ等の更新頻度を上げるため組織的な体制づくりを図りたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①安全・安心な学習環境の維持に努め、点検・改善に努める。 ②信頼・信用ある学校経営に努め、事故不祥事根絶に向け、強い決意をもって臨む。 ③教員のライフワークバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①-1 生徒の防災意識を高める教育機会を充実させる。 ①-2 資源の有効活用等、環境意識を高める取り組みを行う。 ②-1 事故不祥事防止会議等を定期的で開催し、業務の点検を行う。 ②-2 成績処理、調査書、推薦書の点検体制を確立し適切な処理を実施する。 ③長期休業期間中の学校閉庁日の設定。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。</p>	<p>①-1 実践的防災訓練やPTAと連携した登下校指導等、生徒の防災意識の向上を図る。 ①-2 生徒環境整備委員等の活動を活発化させる。 ②-1 事故防止研修会を毎月実施する。啓発資料のチェックリストを活用して職員の意識を高める。 ②-2 学校全体で正確な点検に努め、組織的な体制で臨む。 ③学校閉庁日の完全実施をめざす。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。</p>	<p>①-1 実践的な防災訓練が実施できたか。 ①-2 生徒を中心とした古紙回収・再利用等の活動に取り組めたか。 ②-1 事防止に対する当事者意識の向上とヒヤリハット含めた事故防止はゼロにできたか。 ②-2 教科・グループ・学年が協働した正確な対応ができたか。 ③学校閉庁日の完全実施、夏季休暇の平均取得日数が4日以上となったか。</p>	<p>①-1 シェイクアウトとスケアード・ストレイトを実施した。PTAと連携して自転車空気入れと下校指導を行った。 ①-2 生徒環境整備委員による古紙回収活動を行った。 ②-1 毎月、事故防止啓発資料による点検を実施した。 ②-2 担当グループが主導して点検業務を組織的に実施した。 ③夏季休業中3日、冬季休業中2日を学校閉庁日とした。教員の夏季休暇取得平均は4.4日であった。</p>	<p>①-1 スケアード・ストレイトは3年に一度実施しているが、1000人を超える全校生徒での実施に向けて工夫をする。 ①-2 引き続き古紙回収・再利用の意識を高めていく。 ②-1 啓発資料による点検は継続して実施する。 ②-2 組織的な点検体制を強化しミス防止を徹底する。 ③職場環境の改善に向けた取組を進める。</p>	<p>①-1 生徒に対する防災意識の啓発活動は一層進めることを望む。 ①-1 地域の中での学校として、地域行事に協力願いたい。</p>	<p>①-1 防災訓練やDIG研修、スケアード・ストレイト等の交通安全教育について計画通り実施した。避難訓練では喫食訓練等、実践的な内容で実施した。 ①-2 資源活用の取り組みは、次年度も引き続き取り組みたい。 ②-1 わいせつ事案根絶を重点課題とした職員の不祥事防止研修会を3回実施した。 ②-2 成績処理等の点検業務を組織的な体制で実施することができた。 ③職員の休暇取得は、おおむね良好な状況であった。</p>	<p>①-1 引き続き防災意識を高める実践的な防災訓練を実施する。 ①-2 環境問題をテーマに様々な課題について生徒に考えさせ活動につなげる。 ②-1 不祥事防止の根絶を職員全員で取り組み、啓発資料等を活用し定期点検を実施する。外部講師による研修会を開催する。 ②-2 成績処理等の点検業務への意識を高め、より正確なものとする。 ③引き続き、夏季休暇、年次休暇等の取得を推進する。取得日数4日以上をめざす。</p>